

平成30年度劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)

成果報告書

団 体 名	公益財団法人名古屋市文化振興事業団	
施 設 名	名古屋市芸術創造センター	
助成対象活動名	公演事業・人材養成事業	
内定額(総額)	12,386	(千円)
公 演 事 業	10,064	(千円)
人材養成事業	2,322	(千円)
普及啓発事業		(千円)

(2) 平成30年度実施事業一覧

【公演事業】					
番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	【芸創コラボ】連携企画 公演 舞踊劇「納屋橋物語」	2018年12月16日	演目：舞踊劇「納屋橋物語」 出演：花柳朱実、杵屋六秋 他 演出：伊豫田静弘、久保田明	目標値	900
		名古屋市芸術創造センター		実績値	1,053
2	【芸創コラボ】連携企画 公演 (一社) 現代舞踊協会中部支部「家路」	2019年1月27日	演目：「家路」 出演：石川雅実、近藤夕希代 他 演出・振付：井上恵美子	目標値	900
		名古屋市芸術創造センター		実績値	925
3	【芸創コラボ】連携企画 公演 名古屋二期会・芸創オペラ「フィガロの結婚」	2019年3月2・3日	演目：「フィガロの結婚」 出演：鈴木健司、中部フィルハーモニー交響楽団 他 演出：唐谷裕子	目標値	1,200
		名古屋市芸術創造センター		実績値	1,308
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
平成30年度の目標値、実績値				目標値	3,000
				実績値	3,286

(2) 平成30年度実施事業一覧

【人材養成事業】					
番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	名古屋市芸術創造センター バレエアカデミー及び修了公演	公演：2019年2月23・24日	演目：コッペリア〈第三幕〉より他2作品 出演：バレエアカデミー受講生 講師：松岡璃映 他3名	目標値	935
		名古屋市芸術創造センター		実績値	798
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
平成30年度の目標値、実績値				目標値	935
				実績値	798

【妥当性】

自己評価

社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

当初の計画（助成金交付要望書）から大きな変更なく、計画通り事業を遂行した。（資料1,2）

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

<公演事業>

「多くの実演家に出演いただくことで、実演家どうしのコラボレーションを実現し、相互に成長し合う機会を提供する」「創造的で、観客が満足できる芸術性の高い舞台公演とする」の2つを目標として掲げ、実演家どうしが交流し、互いに刺激し合う場を提供した。それにより、当地域の実演家のレベルアップを図り、ジャンルを越えた今後の相互交流を育んだという点において、文化的意義が十分にあると言える。また、実演家・観客がともに大きな負担なく公演を実施できた点に経済的意義がある。

<人材養成事業>

名古屋地域はバレエが盛んであり、大きなバレエ団から小さな教室まで数多くのバレエ団体が存在しており、バレエ人口も多い。しかし、小規模のバレエ団体においては舞台発表の機会も少なく、同世代のダンサーと共演する機会も限られている。そこで、当事業では「多くのバレエ団体から参加していただく」「参加者にダンサーとして成長していただく」「観客が満足できる芸術性の高い舞台公演とする」の3つを目標として掲げ、多くのバレエ団体から集まったダンサーどうしで切磋琢磨する機会、大規模な舞台公演の経験を積む機会を提供した。それにより、将来のバレエ界を担う人材を育成するといった点において、文化的意義が十分にある。（資料3）

また通常、約5か月の講座と公演に出演しようという場合には、かなりの経済的負担がかかる場合も多いが、ダンサーたちに、学びの場を少額の負担で提供するといった点においても、社会的・経済的意義がある。

両事業とも、未就学児を入場不可としているが、未就学児のお子様をお持ちの方も鑑賞いただけるよう、託児サービスを設けたほか、入場料に障がい者割引を設け、身体の不自由な方をご案内するための誘導員を配置し、多様なニーズに応えた。

【有効性】

自己評価

目標を達成したか。

<公演事業>

・3事業平均で10団体に参加いただいた。（資料4）「納屋橋物語」については、日本舞踊を中心として演劇・長唄・合唱の団体どうしのコラボレーションにより、出演者より互いに学びとなったとの声があがった。「家路」では、16団体が参加し、年齢層も10代から80代と幅広く、互いに刺激を受けることができた。「フィガロの結婚」については、プロとして活躍する声楽家のほか、大学生も参加し、よい成長の機会となった。

・来場者アンケートにおいて、設問「本日の公演はいかがでしたか」について3事業の平均で97.6%とたいへん高い評価を得た。特に、「納屋橋物語」については、名古屋のランドマークである納屋橋をテーマに、舞踊・演劇・音楽を織り交ぜた珍しい舞台構成から、名古屋らしさ、新しさを評価された。（資料5）

<人材養成事業>

・名古屋市内に限らず、東海地方のバレエ団体140団体に広く募集をかけることで、15団体から出演者が集まった。（資料6）

・講座参加者へのアンケートにおいて、設問「参加していかがでしたか」について「よかった」の回答が97.0%、「学んだことは今後の参考になりましたか」について「なった」の回答が90.9%となった。ほか、自由記述欄にて「新しい発見がありとても良い刺激を受けた」「初めてコンテンポラリーを踊り、クラシックとは全く違った身体の動かし方を学んだ」などの意見もあり、講座参加者の満足度は高く、成長もみられた。（資料7）

・来場者アンケートにおいて、設問「本日の公演はいかがでしたか」について「よかった」の回答が95.8%となったほか、「想像と全く違う激しいコンテンポラリーでとても新鮮に感じた」などと高い評価を得ることができ、発表会ではなく、観客が満足できる芸術性の高い舞台公演とすることができた。（資料8）

上記の通り、当劇場において開催した公演事業、人材養成事業は当初定めた目標を十分に達成しており、有効であったといえる。

【効率性】

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。
アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

【事業期間について】（資料1,2）

<公演事業>

3事業ともに、当初の計画通りに事業を進めた。「家路」の関連事業として開催した「現代舞踊協会中部支部のあゆみ展」では、近隣の文化施設「文化のみち二葉館」の協力が得られたため、11月に追加で実施することとなった。

また、「フィガロの結婚」の関連事業として実施した、近隣小学校へ声楽家を派遣する「エデュケーションプログラム」については、小学校の都合により1回目を9月に開催することとなった。

<人材養成事業>

オーディション・講座・公演まで、当初の計画通りに事業を進めた。

上記の通り、公演事業・人材養成事業ともに本体は計画通り進行し、「有効性」で挙げた通り出演者・観客ともに高い評価を得たことから、事業期間は適切であったと言える。

【事業費について】

<公演事業>

3事業ともに、当初の計画（要望時）より100~200万円程度支出を抑えて実施した。要望額からの減額があったことから、交付申請時に予算を見直したためである。交付申請時の予算からの助成対象経費総額の変更率は+5.4%と、ほぼ計画通りに進めることができた。（資料9）

<人材養成事業>

当初の計画（要望時）より130万円程度支出を抑えて実施した。要望額からの減額があったことから、交付申請時に予算を見直したためであるが、交付申請時の予算からの助成対象経費総額の変更率は-19.2%と、20%を超えることはなかったものの、さらなる変更が生じた。主な理由としては衣裳に関して講師の協力が得られ、予算からの減額があったこと、演出内容を精査し映像制作を行わなかったこと、講師のシフトにより講師謝金が減額となったこと等が挙げられる。（資料10）

上記の通り、公演事業については要望時の計画から予算を見直し、効率的に事業を実施した。また、人材養成事業については予算を見直したのちにも支出の変更があったが、予算を超えることなく実施した。

【創造性】

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

当センターは、「文化施設のあり方にかかる提言」（資料11）「名古屋市文化振興計画2020」（資料12）などを踏まえ、主たるミッションとして以下のものを掲げている。

- （1）名古屋らしい文化の創造拠点
- （2）文化芸術活動の交流拠点
- （3）文化芸術関連の情報収集・発信拠点
- （4）文化芸術における専門人材の配置及び育成する場

これらのミッションを遂行するため、以下の4つの事業を実施した。

<公演事業>

「納屋橋物語」については、名古屋のランドマークである納屋橋の100年をテーマとし、当地域の主要な芸術関係者の多くが籍を置く愛知県芸術文化協会（ANET アネット）と連携した事業である。異なるジャンルのアーティストが所属するANETの特徴を活かし、複数のジャンルが融合した新しい作品を創造・発信した。

「家路」については、現代舞踊の歴史が古い名古屋地域のダンサーが多数所属する、現代舞踊協会中部支部と連携した事業である。現代舞踊協会中部支部は、通常ダンサー自身の振付作品を踊るため、ひとつの作品を合同で踊ったり、他の振付家の作品を踊ったりといった機会はほとんどないが、今回の事業にてその機会を提供した。また、若手ダンサーを積極的に起用し、最高齢のダンサーは80代と幅広い世代のダンサーどうしで互いに刺激し合った。

「フィガロの結婚」は、約550席（オーケストラピット使用時、資料13）と中規模のホールをもつ当センターにて上演することにより、出演者と観客の距離が近く、繊細な表現をも感じ取ることのできる機会を提供した。出演者はオーディションにより決定し、名古屋二期会のほか、名古屋オペラ協会、名古屋音楽大学などから参加いただき、音楽活動の交流や今後の相互交流を育んだ。

<人材養成事業>

バレエを学ぶ若い世代を対象に、10月～2月にかけて30回の講座を実施し、成果を修了公演にて発表した。指導にあたったのは名古屋を中心に活躍し、経験の豊富な高宮直秀、幸田律、松岡璃映、松村一葉の4名であり、修了公演の振付も行った。

修了公演では、小規模なバレエ団体では上演しにくい、クラシックバレエの古典作品「 Coppélia」と、クラシックバレエの創作作品「クラシカルシンフォニー」、コンテンポラリーダンスの創作作品「ブランデンブルク協奏曲」を取り上げた。講座・公演ともに、バレエ団体の枠を越え、同世代のダンサーと互いに刺激し合うことで、受講生に得難い経験をしていただくことができた。

また、当センターは、施設の構造上エレベーターを使いホールへ向かう動線がわかりづらく、バリアフリーの面で課題がある。しかし各事業において、バリアフリー対応のためのアテンダントを配置し、身体の不自由な来場者をお待たせすることなく、安全なルートでご案内することができた。（資料14）

上記の通り、構造等の課題をかかえるものの地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮した優れた事業を実施することができた。

【創造性】

自己評価

地域の実演芸術の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。

市民が当センターに期待する活動として「市民の創造・発表の場」「文化芸術の情報提供」「名古屋独自の公演」といった要素が挙げられており（資料15）、市民の期待に沿ったミッションを掲げ、前述の通り遂行した。

さらに、公演の情報だけでなく、稽古や講座の風景をFacebookにて発信し、作品の創造の過程を市民へ広く紹介し、文化芸術への親しみを醸成した（資料16）ほか、各事業についてそれぞれマスメディアや広報誌等より取材を受け、記事にさせていただくことで、広く当センターの取り組みや事業効果について情報発信を行った。（資料17）

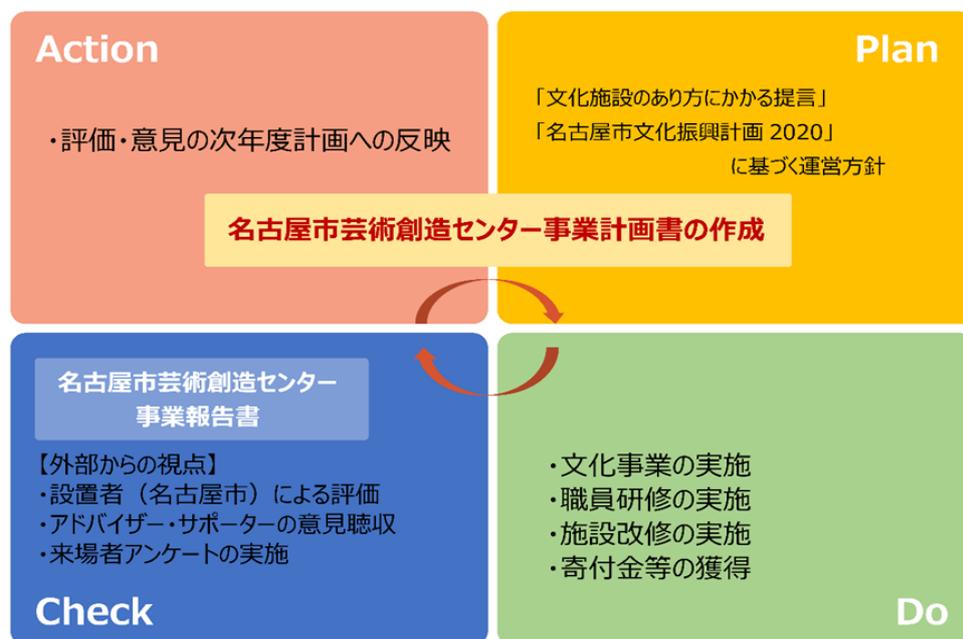
上記の通り、実演団体との協働だけでなく、広く市民へ情報発信を行い、地域の文化芸術の発展に寄与することができた。

【持続性】

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

当センターでは、「名古屋市芸術創造センター事業報告書」のほか、設置者である名古屋市による評価（資料18）、アドバイザー・サポーターからの意見聴取（資料19,20）、アンケートの結果をもとに、「名古屋市芸術創造センター事業計画書」を作成している。その計画をもとに、文化事業・施設改修などを実施し、自己点検の実施・外部からの評価を受け、それらを次年度の計画に反映させていくPDCAサイクルを回している。（資料21）



事業による効果として、例えば人材養成への取り組みについては、助成事業の際にインターン生の受け入れを行い、稽古に立ち合い、公演当日の運営にも携わっていただくなど、将来舞台芸術に関わる可能性のある学生たちに経験を積んでいただくことができ、芸術創造センターについても知っていただくことができた。インターンシップの受け入れについては、過去の助成を受けた事業においても受け入れをしており、事業を通じて大学と当センターのネットワーク形成がなされている。（資料22）

ほか、各公演においてボランティアスタッフにフロント業務・場内監視業務の一部を依頼し、公演の鑑賞もしていただくなど経験を積む機会を提供でき、ボランティアのスキル向上・育成にもつながった。（資料23）

また、事業実施に際して施設のバリエーションを増設し、増設後の取材を受けることで事業のPRを行うとともに、事業についての営業をかけて協賛金をいただくなど、能動的に動くことで新たなネットワークを形成することもできた。

このように、事業を通じて当センターの活動は強化されており、活動に対する評価・意見を取り入れていくことで、更なる強化を目指している。